

研究プロジェクト総合報告  
研究プロジェクト論文

## ICT を使った英語リーディングに関する授業研究

飯 田 毅

同志社女子大学・学芸学部・国際教養学科・教授

### Classroom Research on Intensive English Reading Class Using ICT

IIDA Tsuyoshi

Department of International Studies, Faculty of Liberal Arts,  
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Professor

#### Abstract

The present study described a first-year students' intensive reading class using ICT to examine their development of English skills. It employed three teaching principles: autonomous learning, flipped learning, and the usage of reading materials whose topics include both liberal arts and a specialized subject. Forty-seven female students in 2017 and thirty-five students in 2018 participated in the study. A course evaluation questionnaire was used to assess students' evaluation of the class and the number of learning hours outside the classroom. A pre-test and post-test were used to examine students' development of English skills. The results showed that their evaluation of the class was higher than that of other classes, and they studied for longer periods than students in other reading classes. It was also found that students in the slow learners group improved their reading and writing skills more than those in the fast learners group.

#### 1 研究の背景

本研究の目的は2年間の取り組みであるICTを使った大学1年次生の英語リーディングの成果を検証することにある。本研究の対象となる科目は2017年度と2018年度の「英語講読 I A・I B」である。既に2017年度の実践は飯田(2018)にまとめたが、本論文ではその一部のデータを再度取り上げ2年度にわたり考察する。本学の英語英文学科及び国際教養学科以外の学科の学

生は、1年次の英語科目として「英語講読 I A・I B」と「英語コミュニケーション I A・I B」を必修科目として学修する。前者は主にリーディングを後者は主にリスニングを中心とした科目である。この2種類の科目は2019年度からそれぞれ「Comprehensive English I・II」「Communication in English I・II」という科目名になり、カリキュラム全体が改正された。

本研究は2014年度から始まり、飯田(2016)、

飯田他 (2018)、飯田 (2018) と継続している授業研究である。飯田他 (2018) と飯田 (2018) は2017年度の授業を研究対象とし、本研究は2017年度及び2018年度の授業を対象としている。2018年度は2017年度と同様3つの授業運営方針がある。1つはICTの効果的な利用である。ICT利用の目的は学生の自律的・自主的な英語学習を促すためである。中等教育とは異なり、高等教育では学生の自律的かつ自主的な英語の学修態度の育成が求められている。次に、反転学習(山内・大浦, 2014)の活用の方針である。教室の学修は、学生が教室外で予め学修してきたことを前提に進める。学生はオンライン上のスーパー英語のリーディングの課題である2つの読み物についての問題を100%完了し、読み物に出てくる重要な単語の意味を調べ、内容に関する学生自身の意見を英語で書いてくる(飯田, 2018)。その学修を前提に、教師は授業でリーディングの方法や語法について解説し、学生からの質問を受ける。また、読んだ内容について学生はペアや4人のグループで英語を使ってやり取りをし、書いてきた英文を読み合い、コメントを書くというコミュニケーション活動も行う。3つ目は、読む英語の内容を専門教育と教養教育の両面から考えて配置するという方針である。教師は学生の読む英文の内容について専門科目を考慮しながら、本学の教育理念の一つであるリベラル・アーツに関する題材をバランスよく取り入れる(飯田, 2018)。

本研究では2年間の実践の成果を検証するために以下2つの研究課題を設定した。

#### 研究課題

- 1 本授業を学生はどのように受け止めたか。
- 2 本授業によって学生の語彙力、文法力、リーディング力、ライティング力、リスニング力はどのように変化するのか。

研究課題2に関して2018年度のみライティング力を入れて調査する。

## 2 研究方法

### 2.1 参加者

参加者は2017年度47名、2018年度35名の看護学部1年次生である。本研究はそれぞれ2学期間の授業を対象としているため、学生の欠席によって人数が異なる場合がある。看護学部では1年次の外国語科目として「英語講読ⅠA・ⅠB」と「英語コミュニケーションⅠA・ⅠB」、2年次科目として「英語コミュニケーションⅡA・ⅡB」が必修科目として設置されている。本学の共通英語科目は学科ごとの習熟度別クラス編成になっている。新入生オリエンテーション時に実施されたクラス分けテストで2つのクラスに分けられ、本研究の対象となる参加者は下位クラスの学生である。

### 2.2 実施方法と分析方法

研究課題1を検証する方法として本学の授業アンケートを使って同じ科目の全体の平均値と比較する。2017年度「英語講読ⅠA」及び2018年度「英語講読ⅠB」科目におけるそれぞれのアンケート項目の平均値と同科目の全体平均値を表示する。授業アンケートでは「授業実施」に関する質問項目Q1からQ7(Q8は比べるできないので除く)、「学習行動」についての質問項目Q9からQ11、到達目標に関する質問項目Q13とQ14に分かれている。

研究課題2に関しては、外部試験と内部試験の2種類の試験とオンライン教材の履歴を使用して分析する。外部試験として「英語 placement test アルファ」(ELPA)を使用し、1年間の英語力の変化を事前テストと事後テストを使って測定した。このテストはリスニング(300点)、リーディング(300点)、語彙(150点)、文法(150点)の4分野に分かれており、合計900点満点の試験である。指示を含めて約80分の試験である。ELPAはクラス分けテストとして開発され、同じ難易度に設定された2種類の試験である。本研究では2種類のELPAをそれぞれ事前テストと事後テストとして使用し

た。事前テストは「英語講読 I A」の 2 回目の授業時に、事後テストは、「英語講読 I B」の 14 回目の授業で実施した。両方の試験の平均値を比較した。また、1 つのクラスを上位群と下位群の 2 群に分け、英語力の差による変化を比較した。2017 年度と 2018 年度の両方の結果を比較した。

内部試験とは 2018 年度における春・秋学期の期末試験として実施されたライティング試験のことである。授業で学んだリーディングのテーマに関して What do you think of…? という問いに自分の考えを 100 語程度の英語で書く試験である。この試験は期末試験の中でリーディングの問題とともに実施された。英語ライティングの研究者であり指導経験が豊富な英語母語話者にループリックス（資料 1）の作成と評価を依頼した。評価の観点は総合的評価（10 点満点）、内容に関する評価（8 点満点）、文法についての評価（8 点満点）である。その合計点をライティング力（最高点 26 点、最低点 0 点）とした。春学期の合計点の平均値と秋学期の合計点の平均値を比較した。また、外部試験の分析と同じ上位群と下位群に分け、その平均値の変化を比較した。

オンライン教材である Super 英語に個々の

学生の学修履歴管理機能が備わっている。その履歴を分析に使った。学生個人ごとの学修量を数字に置き換えたものとしてマイルがあり、マイル数を使って学生の事前・事後学修及び自主的・自律的学修の成果として評価に利用した。

### 3 結果と考察

研究課題 1 について、2017 年度と 2018 年度に実施された「英語講読 I A, I B」授業アンケート結果を使って比較した。その結果、表 1 と表 2 から 2 年間すべての項目において、本クラスの授業が他の同じ科目の平均値を上回っているが、2018 年度は 2017 年度ほど高くはないということがわかった。特に高い平均値を示しているのが、表 1 の No. 7 「自主学習を促す工夫」であることから、学生がこの科目を自主的に取り組むように受け止めていたことが推測できる。表 2 の No. 9 の授業外学習時間数についても同じことが言える。両年度とも平均授業外学習時間を 2 倍近く上回っている。表 2 の No. 10 の授業における積極的な意見と質問に関しても 2 年連続して平均値より高い数値を示している。これは、教室内活動である学生同士のペア活動やグループ活動を取り入れているためである。もう一つの特徴として 2017 年度と 2018 年度を比較

表 1 2017、2018 年度「英語講読 I A, I B」授業アンケート結果

No.	質問項目	2017 年度 本クラス平均/ 全体平均	2018 年度 本クラス平均/ 全体平均
1	授業内容はシラバスに合っていましたか。	3.77/3.60	3.70/3.61
2	受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。	3.79/3.38	3.56/3.45
3	授業は自分の群に合っていましたか。	3.57/3.18	3.50/3.25
4	教員からの一方的な授業ではなく、教員と受講生または受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。	3.79/3.43	3.70/3.46
5	提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナビーへのコメント、チェック後の返却）は効果的に行われていましたか。	3.83/3.24	3.64/3.35
6	言葉による説明だけでなく、受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。	3.72/3.29	3.38/3.35
7	自主学習を促す工夫がなされていましたか。	3.87/3.28	3.75/3.35

注 No. はアンケートの質問項目番号

すると、2017年度の平均値が高いことがわかる。このことは、図1と図2のDWCLA10汎用的スキルの習得状況についても当てはまる。2017年度の方が全体的に高い傾向が読み取れる。

では、なぜ年度によって差が生じたのであろうか。その原因の一つとして、2018年度に比べて2017年度の方が教師と学生との協調・信頼関

係が築けていたという点が挙げられる。教室での教師と学生とのレポートは重要であり、ICTの活用にも影響する(表17のマイル数参照)。授業中の何気ないやり取りや雰囲気等が学生の学修にも影響しているのではないだろうか。その意味で、教師の意図的な協調・信頼関係づくりが大切である。

表2 2017、2018年度「英語講読ⅠA, ⅠB」授業アンケート(学習行動・到達目標)結果2

No.	質問項目	2017年度 「英語講読ⅠA」 本クラス平均/ 全体平均	2018年度 「英語講読ⅠB」 本クラス平均/ 全体平均
9	この授業の予習、復習、自主学習に1週当たり平均どれくらい時間をかけましたか。	1.50/.80*	1.51/.77*
10	あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしましたか	3.09/2.54	2.98/2.67
11	あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習をさらに深めたいですか。	3.41/3.08	3.08/3.07
13	到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。	3.67/3.26	3.46/3.34
14	あなたは到達目標を達成できたと思いますか。	3.27/2.98	3.23/3.11

注 No. はアンケートの質問項目番号 \*1.0=1時間(60分)

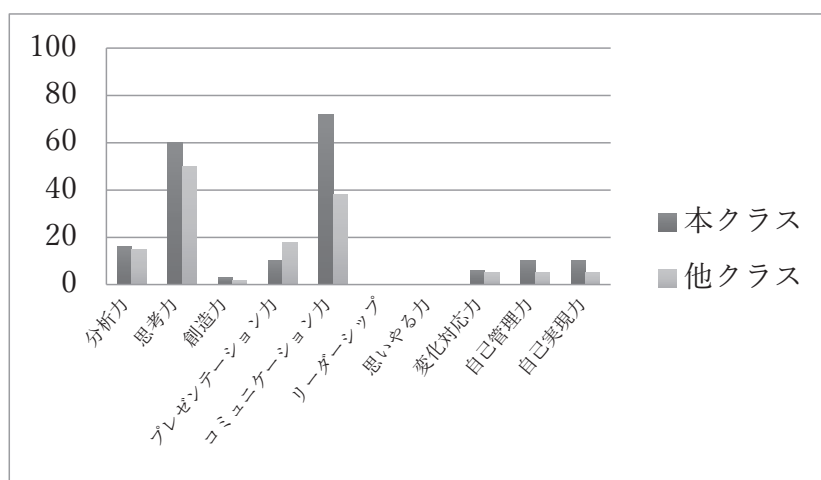


図1 2017年度「英語講読ⅠA」アンケート結果3

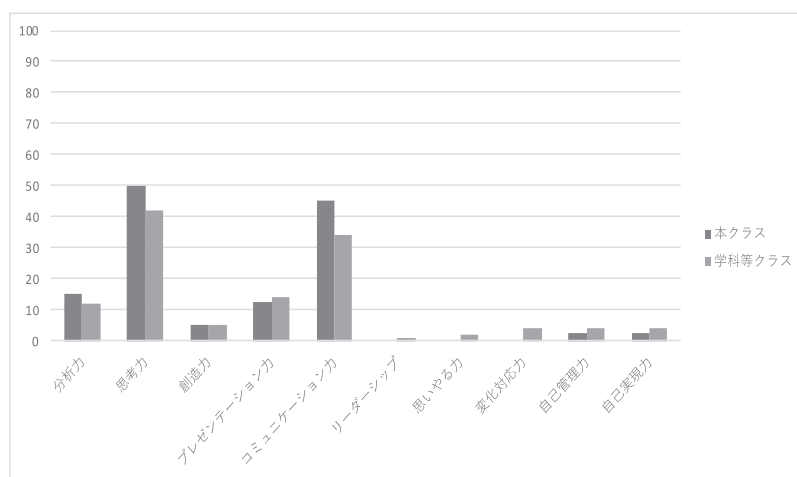


図2 2018年度「英語講読ⅠB」アンケート結果3

表3 2017年度事前テストと事後テスト比較

	事前テスト (2017年4月)	事後テスト (2018年1月)	<i>p</i>
語彙平均 (SD)	98.4 (13.8)	94.7 (12.4)	.07
文法平均 (SD)	100.8 (17.3)	95.4 (16.2)	.04
リスニング平均 (SD)	160.1 (28.3)	170.0 (32.3)	.01
リーディング平均 (SD)	177.0 (47.3)	170.0 (40.6)	.18
総得点 (SD)	536.0 (81.2)	530.0 (78.6)	.45

表4 2018年度事前テストと事後テスト比較

	事前テスト (2018年4月)	事後テスト (2019年1月)	<i>p</i>
語彙平均 (SD)	103.0 (12.9)	93.0 (10.2)	$p < .001$
文法平均 (SD)	99.1 (15.1)	96.8 (17.7)	.429
リスニング平均 (SD)	159.1 (25.0)	168.7 (19.9)	.026
リーディング平均 (SD)	168.6 (28.9)	173.4 (41.6)	.413
総得点 (SD)	529.7 (60.1)	531.9 (72.0)	.842

表5 2017年度 2群間の総得点に関する記述統計

	事前テスト	事後テスト
総得点上位群 (N=23) M	596.6	575.0
SD	63.9	66.7
総得点下位群 (N=24) M	472.8	483.3
SD	40.0	61.3

表6 2018年度 2群間の総得点に関する記述統計

	事前テスト	事後テスト
総得点上位群 (N=18) M	567.8	554.0
SD	50.3	68.8
総得点下位群 (N=17) M	488.4	508.5
SD	38.1	69.7

表7 2017年度 2群間の語彙に関する記述統計

	事前テスト	事後テスト
語彙上位群 (N=23) M	104.8	98.5
SD	11.9	11.2
語彙下位群 (N=24) M	91.0	90.8
SD	12.0	12.7

表8 2018年度 2群間の語彙に関する記述統計

	事前テスト	事後テスト
語彙上位群 (N=18) M	108.7	97.9
SD	8.6	9.4
語彙下位群 (N=17) M	97.0	87.8
SD	14.2	8.5

表9 2017年度 2群間の文法に関する記述統計

	事前テスト	事後テスト
文法上位群 (N=23) M	107.4	101.0
SD	17.8	14.7
文法下位群 (N=24) M	93.8	89.7
SD	14.1	16.0

表10 2018年度2群間の文法に関する記述統計

	事前テスト	事後テスト
文法上位群 (N=18) M	104.2	100.5
SD	15.5	15.0
文法下位群 (N=17) M	93.7	92.9
SD	12.9	20.0

表11 2017年度2群間のリーディングに関する記述統計

	事前テスト	事後テスト
リーディング上位群 (N=23) M	207.5	189.0
SD	44.3	36.1
リーディング下位群 (N=24) M	145.4	150.0
SD	23.9	35.6

表12 2018年度2群間のリーディングに関する記述統計

	事前テスト	事後テスト
リーディング上位群 (N=18) M	185.1	180.4
SD	25.0	41.9
リーディング下位群 (N=17) M	151.1	166.0
SD	21.9	41.1

表13 2017年度2群間のリスニングに関する記述統計

	事前テスト	事後テスト
リスニング上位群 (N=23) M	176.9	186.5
SD	25.5	28.8
リスニング下位群 (N=24) M	142.5	152.7
SD	19.3	26.4

表14 2018年度2群間のリスニングに関する記述統計

	事前テスト	事後テスト
リスニング上位群 (N=18) M	170.8	175.2
SD	27.2	21.3
リスニング下位群 (N=17) M	146.7	161.7
SD	14.8	16.2

表15 2018年度ライティングに関する記述統計

	春学期末テスト	秋学期末テスト
ライティング (N=35) M	12.3	13.5
SD	5.0	4.9

表16 2018年度2群間のライティングに関する記述統計

	春学期末テスト	秋学期末テスト
ライティング上位群 (N=18) M	13.7	12.5
SD	5.6	5.2
ライティング下位群 (N=17) M	11.5	14.3
SD	4.8	3.8

表17 2017年度及び2018年度1年間の総マイル数比較

項目	Min	Max	Mean	SD
2017年総マイル数	1681	11136	6841.5	1716.6
2018年総マイル数	2122	14013	3901.3	2165.4

表18 2018年度2群間の1年間の総マイル数比較

項目	Min	Max	Mean	SD
上位群総マイル数	2222	5144	3269.7	844.7
下位群総マイル数	2378	14013	4499.6	2815.5

研究課題2を検証するために両年度の事前テストと事後テストの結果(表3・表4)を比較する。文法、語彙に関しては両年度とも下がっており、2018年度の語彙力に関しては統計学的に有意に下がっている。リーディングに関しては、2017年度には平均値が下がったが、2018年度は平均値が上がっている。しかし、両年度とも統計学的有意差はなかった。リスニングは両年度とも統計学的に有意に向上している。以上の結果から、総合的な英語力に関しては2017年度と2018年度の結果はほぼ変わらないが、語彙力や文法力はやや下がる傾向があり、リーディング力は維持され、リスニング力は向上していると言える。

次に、事前・事後テスト結果を上位群と下位

群の2群に分けて(表5から表16まで参照)比較する。表5と表6の総得点から両年度とも下位群の学習者の英語力が伸びていることが言える。両年度とも全体として総得点が変わらないのは両群の学習者が同じ傾向を示すのではなく、上位群の学習者が下がり、下位群の学習者が伸びているためである。

総得点を構成するそれぞれの分野の変化を2群間で分析してみよう。表7から表14までの結果が示しているのは、語彙や文法では両群とも下がっているのに対して、リーディングについては下位群が伸びるのに対して上位群が下がり、リスニングは両群とも上昇するという傾向を示している。この傾向は両年度もほぼ同じ傾向を示している。



2018年度のライティングについては、全体的にはほんのわずかが伸びているが、2群間で分析すると、上位群はやや下がっているが、下位群の方は伸びていることがわかる(表15・表16)。つまり、下位群のライティング力が伸びていることを示唆している。

表17と表18の総マイル数を比較すると、明らかに2017年度の学生の方が2018年度の学生の学修量を上回っている。また、表18から2018年度の総マイル数の平均値を比較すると、下位群の方が上回っている。ただし、下位群のSD(標準偏差)が大きいことから、下位群の学習者の間ではマイル数にバラツキがあることが読み取れる。

以上の結果から、ICTを使った本授業は英語力がやや劣る学生のリーディング力やライティング力に有効に働いているのではないだろうか。また、リスニングに関しては、本授業のコミュニケーション活動ばかりでなく、もう一つの科目である「英語コミュニケーションI A・I B」におけるリスニングが影響していると推測できる。

#### 4 結論

ICTを使った英語リーディングの授業は、教室外の英語の学修量を増やし、学生の全体的評価も高くなる傾向を持つ。語彙力や文法力はやや下がる傾向があるが、下位レベルの学生のリーディング力やライティング力の向上に寄与していると示唆される。教育的示唆として挙げられるのは、ICTを使用する前提として授業中の教師と学生のレポートが基盤になっているのではないだろうか、と言う点である。本研究の限界として、学生はこの科目の他にもう一つの英語の科目を受講していることから、本研究で測定した英語力は、厳密な意味で本授業だけが影響しているものではない、と言える。筆者は現在看護学部英語は担当していないが、ICTを使ったリーディングの授業研究を国際教養学科の中で継続し、ICTが学生の英語力向上にどのように寄与するのかを明確にしたい。

#### 参考文献

- 飯田毅(2016)。「教室外の課題と授業を結びつける英語講読の授業」ICT利用による教育改善研究発表での口頭発表。公益社団法人私立大学情報教育協会。
- 飯田毅(2018)。「大学1年次共通英語教育『英語講読I A, I B』改革のためのアクション・リサーチ。同志社女子大学学術研究年報69巻, 1-18。
- 飯田毅, 成橋和正, 橋本秀実, 今井由美子, 佐伯林規江, 高橋玲, 若本夏美, 松中みどり(2018)。「本学の教育理念及びVision 150を活かした共通英語教育開発のための基礎研究—1年目のまとめと考察」同志社女子大学総合文化研究所紀要35巻, 45-81。
- 飯田毅, 佐伯林規江, 今井由美子, 橋本秀実, 成橋和正(2018)。「ICTを使った産出型reading授業の成果。大学英語教育学会第57回国際大会での口頭発表。
- 山内裕平, 大浦弘樹(2014)。「序文 反転授業とは」ジョナサン・バークマン, アーロン・サムズ「反転授業」上原裕美子訳, オデッセイコミュニケーションズ。

#### 資料1

##### Rubrics

9点-10点 An essay at this level largely accomplishes all of the following:

- Effectively addresses the topic and task
- Is well organized and well developed, using clearly appropriate explanations, exemplifications and/or details
- Displays unity, progression and coherence
- Displays consistent facility in the use of language, demonstrating syntactic variety, appropriate word choice and idiomaticity, though it may have minor lexical or grammatical errors

7点－8点 An essay at this level largely accomplishes all of the following:

- Addresses the topic and task well, though some points may not be fully elaborated
- Is generally well organized and well developed, using appropriate and sufficient explanations, exemplifications and/or details
- Displays unity, progression and coherence, though it may contain occasional redundancy, digression, or unclear connections
- Displays facility in the use of language, demonstrating syntactic variety and range of vocabulary, though it will probably have occasional noticeable minor errors in structure, word form or use of idiomatic language that do not interfere with meaning

5点－6点 An essay at this level is marked by one or more of the following:

- Addresses the topic and task using somewhat developed explanations, exemplifications and/or details
- Displays unity, progression and coherence, though connection of ideas may be occasionally obscured
- May demonstrate inconsistent facility in sentence formation and word choice that may result in lack of clarity and occasionally obscure meaning
- May display accurate but limited range of syntactic structures and vocabulary

3点－4点 An essay at this level may reveal one or more of the following weaknesses:

- Limited development in response to the topic and task

- Inadequate organization or connection of ideas
- Inappropriate or insufficient exemplifications, explanations or details to support or illustrate generalizations in response to the task
- A noticeably inappropriate choice of words or word forms
- An accumulation of errors in sentence structure and/or usage

1点－2点 An essay at this level is seriously flawed by one or more of the following weaknesses:

- Serious disorganization or underdevelopment
- Little or no detail, or irrelevant specifics, or questionable responsiveness to the task
- Serious and frequent errors in sentence structure or usage

0点 An essay at this level merely copies words from the topic, rejects the topic, or is otherwise not connected to the topic, is written in a foreign language, consists of keystroke characters, or is blank.

## CONTENT

7点－8点 EXCELLENT TO VERY GOOD: knowledgeable · substantive · thorough development of thesis · relevant to assigned topic

5点－6点 GOOD TO AVERAGE: some knowledge of subject · adequate range · limited development of thesis · mostly relevant to topic, but lacks detail

3点－4点 FAIR TO POOR: limited knowledge of subject · little substance · inadequate development of topic

1点－2点 VERY POOR: does not show knowledge of subject · non-substantive · non pertinent · OR not enough to evaluate

#### GRAMMAR

7点－8点 EXCELLENT TO VERY GOOD: effective complex constructions · few errors of agreement, tense, number, word order/function, article, pronouns, prepositions

5点－6点 GOOD TO AVERAGE: effective but simple constructions · minor problems in complex constructions · several errors of agreement, tense,

number, word order/function, article, pronouns, prepositions but meaning seldom obscured

3点－4点 FAIR TO POOR: major problems in simple/ complex constructions · frequent errors of negation, tense, number, word order/function, article, pronouns, prepositions and/ or fragments, run-ons, deletions · meaning confused or obscured

1点－2点 VERY POOR: virtually no mastery of sentence construction rules · dominated by errors · does not communicate · OR not enough to evaluate